

右田放課後チャレンジ教室

令和3年度 活動概要

右田放課後チャレンジ教室

運営委員長 門田 輝義

コーディネーター 野崎 勝美

1. 活動の概要

- (1) 当初、6月9日(水)より、例年の通り毎週水曜日 1.0~1.5時間、年間32回実施する計画であったが、新型コロナの感染拡大防止のため、防府市等の指導により、1学期2回(6/9,6/16)、2学期4回(9/1,9/8,9/15,9/22)3学期4回(1/26,2/2,2/9,2/16)計10回が休止となり、年間22回の実施に止まることになった。
(3学期は1月12日,19日の実施後休止となっていて、3月2日より再開予定である)
また、夏休みの後半に1週間ほどの特別教室を計画する予定であったが、これも実施出来なかった。このように新型コロナに翻弄される年となり、子ども達には十分な活動をさせられなかったのが残念である。(資料1. チャレンジ教室 予定,実績表参照)
- (2) 参加児童は、希望者が46名だったが、コロナ対策の3密を避けるため定員35名とした。(教頭先生による抽選で選んだ) しかし10月27日、2年生1名が私的事由により退会したので、その後は補充せず34名で実施した。
- (3) 今年度はチャレンジ指導者が3名増え14名となり、毎回平均10名程度が指導にあたった。校外活動(ハイキング、里山、芋掘り,昔遊びなど)にはその他に数名の地域の方が自由参加で支援をして頂いた。また、地域の有識者、経験者に専門分野や地域のことについて講師になって頂いた。
- (5) 活動の内容は、①自主学習 ②工作等 ③遊び・スポーツ ④見学・訪問
⑤音楽・図工 ⑥その他 などであった。
今年度の特徴は地域の方の講師による講義、指導が多かったことである。
(地域の方が講師をされた活動: 6/30, 7/14, 10/13, 10/27, 12/1, 1/19, 3/23 など)
- (6) 今年度は貴山口県教育会の地域活性化活動助成金を頂き、地域の方の講師謝金、栽培材料費に多く活用できた。また工作材料費や調理材料費などに有効に活用でき活動が幅広く、活発にでき、大変感謝している。
(資料4. 貴助成金の使途と領収書参照)

2. 成果

- (1) コロナ感染防止対策で、 $22/32 = 2/3$ の活動回数になってしまったが、色々な

活動を取り入れ、児童の放課後の有意義な楽しい居場所づくりという教室の目標が達成できた。学校、地域の方からも感謝されている。

- (2) もう1つの目標である、地域の活性化に貢献については、地域の諸団体（シルバークラブ、右田伝承会、登山愛好会など）との団体同士としての繋がりが強くなり、講師や指導員として教室に参加して頂き、お互いの団体の活性化にもなっている。また小学校とは、チャレンジ教室の指導者数名が、2年生の掛け算の練習や3年生の算数や地域の歴史、文化などの授業のフォローに参加するなどの協力をし、一方学校からは先生方から音楽のパフォーマンスを披露して頂くことや、施設・道具などで便宜を図って頂くなど相互協力の関係が更に進んできた。

(各団体からの支援参加は、9/29の佐波の里山きずなの森訪問、10/6の健康になる体操、11/10の芋ほり、11/24の石船山登山、12/1昔遊びなどであった)

- (3) 新型コロナウイルスの感染防止対策をしっかりとやり、今のところ問題が生じていないこと、また今年度は聴覚障害（2名）、食物アレルギー（5名）などの生徒が在籍したが、事前に指導者に徹底し、対応してきたので、問題なく活動ができている。指導者としても良い経験ができて自信となっている。

- (4) 生徒募集の際に、保護者に放課後チャレンジ教室の趣旨をお知らせした効果か（？）今年度の生徒は勝手な振舞いをするなどの要注意者が少なく活動がやりやすかった。また、新しく3名の新指導員の方は積極的で元気な方で、講師にもなって活躍して頂いたので、指導者の中も教室も大変明るく元気な雰囲気となってよかった。

3. 今題後の課題

- (1) 教室生徒の募集で、応募者の中に5年、6年生が一人もいなく残念であった。高学年は教室のなかでリーダーシップを発揮する経験、訓練をすることが大事であり、指導者側としても期待している。防府市内の放課後子ども教室の指導者の集まりで聞いてみたが、どこも高学年の参加が少ない傾向にあることがわかった。理由（原因）は、はっきりしないが、活動の内容が高学年生には幼稚なものが多いと感じている？、家で友達と遊びたい、習い事などで忙しいetcなどの意見があった。来年度は募集時に、高学年へ教室での期待を知らせる、父兄または児童にアンケートをとってみるなど、もう少し実情を把握して対応をとりたい。

- (2) 成果（2）で述べたようにいくつかの地域団体とは連携できるようになったが、新型コロナウイルス感染防止で多くの団体が活動を控えている状況で、なかなか交流できる新しい団体がみつからない、見つけられなかった。取りあえず、現在連携している団体との協力をさらに強める、またコロナが終息した後に協力していける新

しい団体、個人を地道に発掘していきたい。

(3) 新しい指導者の確保と若返り

今年度は新しい指導員（ボランティア）3名が参加され、活動が活発化したが、活動推進員の増員、若返りができなかった。指導員の中からチャレンジ教室の活動に意欲のある方を2～3人推薦したが、いずれの方も仕事か、家庭の事情があり、忙しい活動推進員の仕事はできないということだった。。今年度は諦め、まずは活動推進員の仕事内容をよく知って頂き、少しずつ分担しながら慣れて頂いて、スムーズに指導推進員になってもらうよう来年あるいはさ来年を目指して進めることにした。（防府市生涯学習課の名称に従って、指導者——推進員、コーディネーターの名称を使っています）
——指導員（ボランティア）

(4) 今年度は貴山口県教育会の助成金を頂いたこと、また新型コロナウイルスで活動回数が当初計画の2/3回に減少したことで活動費用は少し余裕がでたが、来年度以降は厳しい状況となる。防府市（生涯学習課）に工作材料費などの支給をお願いしたり、我々の活動を支援してもらえそうな新しい助成金を探して応募してみる等努力したい。

以上

- (追) 今年度も新型コロナの影響で、多くの外部のかたの教室への参加、参観を見合わせたので、貴会要望の“のぼり旗”を掲げる機会がつかれなく要望しませんでした。申し訳ありませんでした。来年度新型コロナが終息すれば、掲げる機会をつくれますのでよろしく願いいたします。
- 尚、貴助成金を頂いていることは、開校式、閉講式等では、会長等から挨拶時に説明をしております。

添付資料

1. 1, 2, 3学期の活動予定表と実績（新型コロナにより活動を休止、変更したもの 赤字表示）
2. 参加指導者、児童数の実績
3. 1, 2, 3学期の活動報告（写真）（3学期は一部実施したもの）
4. 貴助成金の使途（支出）と領収書
5. 外部へ出した案内等

以上